まい あーと■「スノーボーイ」
by CAKE STUDIO35スタッフ

WARAUKADONIWA HUKUKITARU

笑う門には 立川落語会

「立川落語会」が誕生して十年になる。この記念すべき日に、今までの公民館から格あげして、市民会館で「十年分を笑ってもらおう」と大興業に打ってでた。二十人の噺家衆、いずれ劣らぬ熱演ぶりだったが、おなご衆もふたり加わっての大賑い。岩田正彦先生の「公民館講座」から端を発したこのグループ、「出藍の誉れ」と申したら過言であろうか。

立川亭六助

この人が今の会長。自分の芸もさることながら、気配りの良さで『愛宕山』を

立川亭都蝶

プロを志したこともある程の力量。ミヤコ蝶々に間違われて名作『がまの油』

立川亭ぽてと

高座でサンゼンと輝く美少年。語り終えた時には場内がら空きとか。『牛ほめ』

立川亭夢子

長い間、紅一点だった。この所、急成長の夢みる夢子ちゃんは『金明竹』

叶家正喬

当会うみの親の一人、初代会長。男女のキビに通じ、その噺は『幾代餅』

花輪家雲黒斎

花輪家の家元。早大オチケンＯＢの『船徳』はちっともウンコクサくない

花輪家水仙

これでも中学で音楽のセンセしてますの。水洗じゃないわよ。『寿限無』

立川亭志ん士

あのマジメ人間が、ソソとした空気でスタンダードNo.「目黒のさんま」

友遊亭気楽

ヨタ噺なら、この人。高座にふらっと上がって『悋気の虫』をたっぷり

立川亭楽天

ゆったりとした体躯が繰り出す、絶妙の味はヒューマンな『藪入り』で

ことわざ問答 21

漢字一字挿入せよ

▼色の白いは●難かくす

▼金の切れ目が●の切れ目

ぐるり立川 21

雑草という名の草はない。だから、その辺の草を雑草と呼ぶのはかわいそう。」と立川の自然観察会に参加したある方が強調していた。

草はみんなそれぞれの名前をもち、それなりの特色をもつ自然界のすばらしい姿である。雑草とは、「いろいろの草」「農耕地で目的の栽培植物以外に生える草木」である（広辞苑）。冬になると草たちもみんな枯れてしまい、氷りついた枯草の世界の下には、無数の種子が暖かい春を待っている。そんな中でも、夏の終りから初秋にかけて芽生えた草たちを見ることがある。越年草の仲間で、畠や田んぼの中、道端などでは特に目立つから越年草の観察はこの時期がよい。農家では「冬草」といって嫌われものである。冬草は、地が暖まる二、三月頃には根が動き出し、早春に他の植物に先がけて春一番の花を咲かせ、またすぐ種子をとばせるからその繁殖力は極めて強い。まごまごしていると畠一面草だらけとなるので、冬草退治は大切な農作業の一つである。さてその冬草には、ナズナ、ハコベ、ハハコグサ、コオニタビラコ（水田）、スズメノカタビラ、オオイヌノフグリなどなどたくさんあるが、みんなきびしい冬の寒さを、それぞれの形ですごしぬき、その生命力の強さには驚くほどである。冬草には正月の七草粥に入れる春の七草もいくつか含まれていて、これを利用したことは生活の知恵の尊さと言えよう。（鈴木　功この項終り）

富士山頂の日没
富士見町4丁目にて撮映

焼き立てを幸せブレッドと言います

香ばしい香りにどこか誘われ、引き付けられてしまうパン。パンは消化もいいし、忙しい朝に、また、ちょっと食べたい時など、その手軽さが嬉しいところ。手づくりが一つの贅沢ということからホームベーカリーも登場。時代の多様化が手伝ってか、少し事情が変わってきたようである。そんな中で、根強く人気を得ている、また、新しい感覚に応えているパン屋さんを訪問してみた。

うぐいす・ピーナッツ・チョコレートソフトを持った今井店長

★情熱のベーカーと自称しているのは、二木のパン（曙町）。香ばしさの秘密は材料の粉への拘りとか。この多様化した時代にパンの上手な買い方は、選ぶ楽しさと食べる楽しさをミックスしていくことと は、今井店長。菓子パンとは違うお茶受けとして写真のようなソフトブレッドが今、とっても人気。

★パンはわりと安値で二つ、三つ買っても五百円以内で朝食に、また軽いランチにもなり、ライフスタイルとしてもおススメですねというのはパスコ立川店の横田店長。焼き立ての美味しいパンを一階で買ってそのまま、美味しいコーヒーと一緒に二階で召し上がっていただけるのがここの特徴。本来、パイの下地で、中身を和製お惣菜にした、キッシュがおススメです。

開店したばかりのパスコ立川店

★フランスから伝わった技術そのままで作ることを守りぬいている本格的なフランスパンはゴンファノン・クボ（柴崎町）。子供向けに発案した柔らかいフランスパンも好評。〝桜あんパン〟の人気の秘密は、桜の若葉の塩づけが、糖分を控えたあんの甘さをひきたてているためという。

★永く親しんでもらおうと、ブレッド中心はオーロール立川店。おススメはやはり、ホテルブレッド。美味しい食べ方は、ホテルブレッドのちょうど頭が8つに持ち上がっている所を、焼きたてを生のまま手でちぎって、何もつけずにそのままダイナミックに食べるのが本当は一番美味しいという。

釜から出るホテルブレッド（オーロール立川店）

★お惣菜パンと言えば、ベルナール立川店（曙町）。中でも独特のタルタルソース使用のあらびきウィンナーは根強い人気。他グラタンものもおススメ。

食は文化というが、パンの味わいも一通りではないものがあるようだ。文化は比較からといい、食べ比べてみるところに、もう一つの味があるのかもしれない。今や、街の食文化のクリエーターとして朝早くから奮闘しているパン屋さんの作品を楽しみたいものだ。

表紙は語る

まい　あーと■「スノーボーイ」
by CAKE STUDIO 35 スタッフ

12月には、クリスマス、クリスマスにはやっぱりケーキが一番楽しみ、という人は、健康で幸せなのに違いない、と思います。

今月の表紙はケーキでできた雪だるま（スノーボーイ）です。

ジューシーなフルーツケーキにメレンゲをコーティングして固めた、見る楽しさだけでなく、食べる楽しさも、満喫させてくれる一品です。

これはもともと、羽衣町のケーキスタジオ35のスタッフの方々が、お店のディスプレイ用として、子供も大人も楽しんでもらえるようにと創ったものです。

「お店のものは、全部うちのスタッフでつくります。ディスプレイも、食べられるようにつくりますので、いつでも注文を受けられます」と、店長の杉村さん。

遊び心を大切にしたケーキづくりは、つくる人も、見る人も、食べる人も、楽しさがいっぱいあふれていました。

立川・トピックス

グリーンの天使ソクソクと登場

10月28日、昭島の昭和の森ゴルフ場にて第2回レディスゴルフ大会が行われた（立川市地域文化振興財団主催）。少し肌寒い空の下、グリーンを一斉にスタート。18ホール全てを使い、ゴルフ場は一六六名の色で染められた、あでやかな華模様となった。

優勝の栗袋さんは昭島、準優勝の堀さんは杉並という、広範囲からの出場。立川から参加の古屋美代子さん（上砂町）も見事に三位の健闘ぶり。年齢にも幅があり中には娘とお母さんという親子の参加も。来年がまた楽しみである。

強い男は立川から 高校チャンピオンの二人

本格的に体を鍛えたかったという二人。先日行われた、都パワーリフティング選手権大会にて高校生の部で八王子高校二年の中野清雅選手（栄町）が60㎏級で、国士館高校三年の新田晃一選手（高松町）が75㎏級で共に優賞の栄冠に輝いた。なお新田選手のトータル成績477・5㎏は今までの都高校記録を書き変えた快挙。高校のクラブには属さず帰宅後、共に同じジム（立川トレーニングセンター）に通う二人。鍛えて鍛えて自分の限界を破った時の感動をバネにさらに新記録に挑みたいという。将来が楽しみな二人である。

？立川クイズ

今月は立川の〝標高〟なるものについて、ひとつ。立川の街で測定されている地点の中で海抜が一番低いところと最も高いところの〝標高差〟はどれぐらいでしょう。
およそ①20m　②40m　③60m

【11月号の答】　カワラノギク

毎年10月なかばから11月にかけて立川近くの多摩川の川原で淡い紫色の花を咲かせています。ご覧になった方もいらっしゃることでしょう。関東・東海地方のごく限られた川にしか見られないという珍しさに加え、植物学上、最初に発見されたのがここ立川という、たいへん由緒ある花なのです。

生育条件が難しいこともあって年々その数が減っているそうです。川の汚れもその原因の一つとか。いつまでもこの花が咲き続けられる多摩川であってほしいですね。

真如苑だより

めぐり来る季節のなんと早いことでしょう。この間暑い暑いと云っていたのにもう、師走ですもの。ふしぎなもので、寒さもきちんとついてきていて、北風も例年どおり。東風たゆとう真如の精舎へも、どうぞ。

■日時　12月15日(日)
午後2時半～4時半

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

ことわざ問答　解

金の切れ目が縁の切れ目

[illegible]

色の白いは七難かくす

[illegible]

東風

十年ひと昔という。小誌よりも大分先輩格にあたる立川落語会とは創刊以来のおつきあいで、陰ながらその成長ぶりを喜んできたのだが、この秋に十年という大きな節目を迎えた。まずは、第一関門突破というところであろうか。おめでとうを心からいいたい●中央公民館に落語講座があって、その道の研究家・岩田正彦氏を講師に招いておこなわれたが、講座終了後もグループで研鑽をつづけ、十年たった今日では二十名の多きを数えるまでに至ったという。●はじめのころは「隣に囲いができたねえ」「へえ」というのから、鼠を生捕りにした一人が「大きいだろう」と自慢をすると、相棒が「小せえ」と反発、鼠の大小を争っていると、なかから鼠が「チュウ！」と答えるという単純な小噺で基礎訓練をしてきたのだと聞いた。それがいまや「付き馬」「船徳」など文楽、志ん生顔負けの大きな噺をやってのけるようになった。上手下手は別としてとは云わない、皆んな上手いのである●立川落語会の初代会長は立川亭松喬であった。本名を清水正広さん（羽衣町一丁目）といい、最近になって芸名を改めて、叶家正喬とした。現会長は四代目になり立川亭六助、小町邦彦さん（府中市）。就任は順繰りというところに、芸の厳しさとは別の、なごやかさがうかがわれて嬉しい●風呂吹きを　舌にころがし　えくてびあん

（編集）小川知子　坂本弘子　藤川　瑾　中村絵里
原田悦子　半沢正弘　町田健一　山田恵子
（写真）天野武男　堀橋一明　井上義治
スタジオ269　桂川一巳　本多　修

月刊えくてびあん　第89号
平成三年十二月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町1-3-37-101
第城ビル3F　〒190
電話　〇四二五(28)〇〇八二
FAX　〇四二五(28)一二九七
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

私の傑作選

NICE SHOT!

誰のアルバムにもキラリッと光る一枚がある。
撮れた！と思った。シャッターが軽い。

原田孝一さん
（羽衣町2丁目）
愛機➡ニコンF3・P
■ヒドリガモ

佐伯政雄さん
（羽衣町2丁目）
愛機➡フジカ6×4.5
■初冬